

令和8年度公開プロセス結果（概略版）

府省庁名 国土交通省

事業名 都市水環境整備事業

事業の概要

湿地の再生等により、生物の生息環境、水環境の改善を図るとともに、河川整備を通じて良好な水辺空間の整備等を行うことで、河川空間とまち空間が融合した賑わいのある良好な空間形成を図ることを目的とする事業。

公開プロセスにおいて踏まえられた「点検の視点」※

※「租税特別措置・補助金見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議（第2回）」において示された、国民からのご提案を踏まえた各府省庁における自己点検の視点。
（参考）[各府省庁における要求・要望に向けた自己点検](#)

- 効果検証を強化し、成果に基づく制度運用へ転換すべき

有識者からの主な指摘事項

- これまでのやりとりを通じて、効果発現の経路を複数の線形にする等、あるべき姿により近いロジックモデルの作成に至ることができた。なにより、有識者や市民団体などとの協働によるアダプティブなPDCAサイクル（順応的整備）は政策改善プロセスとしても、また、実践共同体の構築を通じた関係者の主体性および能力の向上にも有効である。今後は、拠点ごとの実態把握を踏まえ、全体としての俯瞰もさらに進められるよう尽力されたい。
- 河川の自然環境の状況を測定・評価することは非常に難しい。国交省が専門家としての視点から項目を設け、定期的に（費用が掛かるため）生態環境を評価する取組を全国レベルで行っていることは素晴らしい。このデータの利用法が向上し、政策改善に結びつくことを期待したい。
- 生物の生息・生育・繁殖環境の改善に向けた事業手法として、各河川に応じ、目標を明確化し、事業計画を作成し事業に取り組むことは正しい方向。その場合、短期アウトカムが、全国を通じた魚類の確認種数のみでは各河川ごとの成果の測定には不適切。効果測定も、各河川ごとの事業計画で設定された定量的目標の達成度等により測定のうえ、全国で目標を達成した河川の割合等をアウトカムとすべき。